

このたび「ライブ・エクスプロージョン」(企画:白井美穂/東京)と「シティ・ビーツ」(企画:ベリット・フィッシャー/ベルリン)の合同展のご案内を致します。

展覧会名:シティ・ビーツ+ライブ・エクスプロージョン

展覧会期:2010年6月25日(金)~7月15日(木) 11:30~19:00

会期中無休 入場無料(ライブパフォーマンスは有料)

オープニングパーティ:2010年6月25日(金) 17:00-19:00

場所:BankART Studio NYK1F / NYK hall 横浜市中区海岸通り3-9

主催:エクスプロージョン 協力:BankART1929

お問い合わせ:live@explosion-tokyo.com 090-4833-7713 <http://www.explosion-tokyo.com/Live.html>

ライブパフォーマンス [各日¥1,000]

6月25日(金) 19:00~21:00 村田峰紀、河合政之、1cVG、対岸

6月26日(土) 19:00~【BED】眠り人のための演奏会-vol.3 (企画:スエナガゴウ) with 高橋永二郎

6月27日(日) 19:00~21:00 "t" (中川敏光、清水友美、後藤天) plus HAL_&林潤

7月4日(日) 19:00~20:00 Hair Stylistics (中原昌也)+河合政之、中川敏光

7月11日(日) 19:00~20:00 "t" (中川敏光、清水友美、後藤天)、河合政之

カフェトーク [参加費無料]

6月27日(日) 16:00~18:00 河合政之、金魚/黄桃 他展覧会参加アーティスト

7月4日(日) 16:00~18:00 中原昌也(ミュージシャン/小説家/元暴力温泉芸者)、高橋洋(映画監督/『リング』脚本家)、河合政之

7月11日(日) 16:00~18:00 住友文彦(横浜国際映像祭CREAMディレクター)、井出玄一(Boat People Association 代表)、河合政之

ライブ・エクスプロージョン Live explosions

企画:エクスプロージョン/白井美穂

出品作家:石田悠介、沖啓介、河合政之、利部志穂、金魚/黄桃、國宗浩之、木村幸恵、木村稔+藤田至一、志水児王、白井美穂、"t"(中川敏光、清水友美、後藤天)、高安、野村和弘、村田峰紀、山本雅熙

「ライブ・エクスプロージョン」では個人またはコラボレーションにより、美術と音楽、パフォーマンスの領域を横断して活動する15人の日本の美術作家による新作の展示と様々なライブパフォーマンスを行います。会場ではインスタレーションやビデオの展示の間で、日用品を改造した手製の楽器での演奏やアナログによるビデオのフィードバック・ノイズだけを使った即興演奏、ボイス・パフォーマンスや物体を使った激しい身体行為が行われます。多彩なアーティストたちの間でアイデアを交換し共有することは、時代のリアリティに向き合うためのより開かれた知覚の獲得に繋がっていくことでしょう。

「ライブ・エクスプロージョン」の作家たちは、私たちを取り巻く日常の事物の機能を置き換え、意味を転用することによって時間と空間の関係を作りだし、観客が自身のリズムの源泉である身体感覚で共感し理解し合える世界を提示します。また作家が特異な状況にあえて身を置くことで、そこに生じた外部との奇妙な結びつきを表現したビデオ作品など、一見ユーモラスでありながらも作家の鋭敏な感性を通して世の中の諸関係についての新しい認識を浮かび上がらせてくれます。

折しも100年に一度といわれる世界的な経済危機に直面し新たな社会状況へ移行する只中で、これらのアーティストたちはより感覚的かつ柔軟な精神で現実を捉え、有機体としての社会を変革していく新たな創造力と芸術の可能性を探求しています。

シティ・ビーツ City Beats

キュレーター:ベリット・フィッシャー

出品作家:ローラ・ブルース(ドイツ)、ライナー・ガナル(アメリカ)、ドライデン・グッドウィン(イギリス)、アレキサンダー・ハイム(イギリス)、ベン・ジャッド(イギリス)、ステファン・パッシャー(アメリカ)、ジェフ・プライス(アメリカ)、アレックス・ヴィラー(アメリカ)

都市の光景はそこに共存するものの関係の織物として、つねに仮設的でありつつ多様な空間として出現し、その様相はそこに生きる人々と共に、世界経済と社会および政治的なシステムと深く結びついています。大都市の鼓動は、人々がなにかを回想することや反復的な行動パターンによってつくられる習慣など、都市生活を儀式化する統制力を通して広がっていきます。日常生活のリズムを作り出す規範や慣例は、社会的で生物学的なリズムを規定する、人間の身体内のミクロの地平と関係していると言えるでしょう。「シティ・ビーツ」のアーティストたちは、都市における建築など物理的な環境と構造、社会学的かつ心理学的なそれらとの、どちらにも応答します。彼らは都市空間と時間における一般的で常識的な枠組みを解体し、再構成する独自の慣例の仕組みを編み出し、適用しようと試みます。彼らは私たちの日々の行動がどのように条件づけられ、いかに操作されているのかを問いつつ、生活の中に構築されたメカニズムと社会的に生み出された空間における信憑性をめぐるシステム、同一性と集団性を観察し、しばしば見過ごされ当然のものとして捉えられている事柄に対して批評的な態度のあり方を示します。

「シティ・ビーツ」は都市のありふれた状況の中での重層的で錯綜したリズムと不協和音の閃きをビデオで編成し、時間と空間、個人と社会、枠組みと内容といった二項の間に構築された関係に新しい見方と検証の仕方を提供します。それは都市空間とそこに生きる人々の間の束の間の有様を映し出すことでしょう。

ベリット・フィッシャー Berit Ficher

1999年より現代美術のインデペンデント・キュレーターとして国際的に活躍している。

近年はベルリンに在住。NGBG(ベルリン)、Zendai MoMA(上海)でのパブリック・アートプロジェクト、Standpoint Gallery(ロンドン)、ラトビア現代アートセンター・リガ(ラトビア)ほか多数の企画をしている。ドクメンタ10やVTOギャラリー(ロンドン)で仕事をし、2006年から美術評論誌Afterall(ロンドン)出版に関わっている。